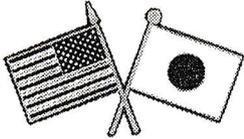


29 MAR 2005



第25号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：<http://www.bouei.com/groups/jaaga/>

在日米軍司令官兼第5空軍司令官交代式

ライト空軍中將が着任・ワスコー司令官は退役

2月10日（金）、在日米軍司令官兼第5空軍司令官の指揮権がワスコー中將からライト中將に移譲された。式典は午前10時から横田基地第15格納庫において厳粛に執り行われた。執行官たる太平洋軍司令官ファゴ海軍大将と太平洋空軍司令官ヘスター空軍大将が訓示を述べられた後、ワスコー中將が司令官としての最後の巡閲を行った。その後指揮官旗の受け渡しを行い、この職を最後に退役するワスコー中將のスピーチが行われた。

ワスコー中將は3年半に亘る第5空軍司令官としての勤務を総括しつつ、素晴らしい部下に恵まれ任務を遺憾なく遂行できたと述べた。特に航空自衛隊との関係では、コープ・サンダー、コープ・ノース・グアムの熟成はもとより、空自のイラク派遣、スマトラ沖地震への派遣に際し極めて密接な連携を保ち得たことを高く評価され、最後の勤務を日本で送ることが出来たことを誇りに思うと述べた。



Lt. Gen. Waskow returns the flag to Adm. Fargo

新司令官ライト中將は訓辞でワスコー前司令官の実績を高く評価し、それを継承しつつさらにより高い次元の安全保障確保に向けてチャレンジする、と述べた。今回で日本勤務が4度目となる事から日本には多くの知人がおり、その一人として在日米軍司令部作戦部長として勤務した時から親しく交流を継続している山口御夫妻の名前をわざわざ挙げたのが印象に残った。

式典終了後、格納庫扉が開けられ、そこには保有する各種航空機が展示されており、キャノピの下方に「Lt. Gen. Bruce A. Wright」とペイントされたF-16戦闘機が披露された。将校クラブでのレセプションでは、レシービングでライト新司令官が一人一人と握手され、JAAGA会長代理の後藤副会長には「JAAGAの活動についてはよく承知している。感謝している。」と述べた。（榎常務理事記）

前司令官ワスコー中将離任の挨拶 (要旨)



Lt.Gen. Thomas C. Waskow

ご来賓の皆様

本日はご参集いただきありがとうございます。

米軍の選りすぐりの兵を代表して整列している諸君、隊列を組んでいる姿は一段と堂々と見えます。この老パイロットのために式典

に参加してくれたことにお礼を言います。諸君とともにここ日本で勤務できたことを光栄に思います。

私は航空兵—エアマンであります。エアマンとして偉大な我が国のために奉仕できましたことを榮譽に思います。私は我が国が戦争中だった1966年の6月に米空軍士官学校に入学した時にエアマンになりました。エアマンとしての初仕事はベトナムでの戦闘でした。そして軍人として現役を終える本日もわが国は戦争中であります。世界的なテロとの戦いは違った形の戦争です。テロリストたちは倫理感を持ち合わせていません。チェスボードの上にゲームを終わらせる駒はなく、地図上にも敵を示す境界線はありません。我々はこの戦争に勝利しますが、時間がかかるでしょう。私はこれまでに何度も「歴史を読むよりもそれを作る側にいたい」と言ってきました。我々が自由を守り私たちの生き方を守ったことは後世必ず評価され、そして我々は勝利します。

在日米軍および第5空軍司令官としての職務を終えますが、日本において陸、海、空、海兵隊の各軍の兵隊たちの指揮をする機会を与えられたことを光栄に思っています。軍人、軍属とその家族の皆さんは我が国の大切な宝物であり、特に現在の情勢にあっては計り知れぬほど貴重な存在であります。我が国が困難な状況の時に国に奉仕することを自ら選んだ若い若者たちであります。どれほど皆さんを誇りに

思っているかは語り尽くせません。

この3年間で日本は新たな歴史を作り、その過程に私も参加できたことを光栄に思います。この間、米日安全保障関係の急速な発展が国際社会に知れ渡りました。ブッシュ大統領再選直後に小泉総理大臣が大統領に電話をし「私は日米同盟が世界の中で最も重要な二国間関係だと確信しています」と伝えました。私も同感です。

米日の同盟が世界の中で最も重要な二国間関係だと心から信じています。この同盟がなかったら現在のアジア太平洋地域はまったく違った姿になっていたでしょう。両国の歴史において同盟の章の題名は日本の防衛強化とアジア太平洋地域の平和と安定の促進となるでしょう。我々の孫の世代がこの時代の歴史を学ぶ時、今日ここにいる皆さんは日本において自分の果たした役割を誇りに思うでしょう。

私の軍人生活において在日米軍司令官、そして最も輝かしい業績のあるナンバードエアフォースの司令官が最高の仕事でありました。我々の住む不安定な世界に対応する中で、毎日起きる変革の一端を担えたことは光栄であります。地域の安全と世界情勢において果たすことのできる役割を日本は今認識し始めているように思います。そして日本が新たな責任を担い始めていることで世界中の国もそのことを共感しています。日本はより良い明日を築くための強固なパートナーであります。

合衆国への破壊的な攻撃後の2001年11月に着任した私の最初の任務は、ヘスター大將が築いていった素晴らしい仕事を受け継ぎ更に強化することでした。9月11日の世界貿易センターとペンタゴンへの攻撃は平和と安全の脆さを気づかせるものでした。また、この攻撃は特定の宗教団体による合衆国に対する攻撃ではなく、野蛮な者たちによる文明社会への攻撃でした。文明国家はみな標的となり得るのです。我々はこれからも平和と民主主義の権利を守ります。9・

11の攻撃に対する合衆国の対応は迅速で断固としたものでした。不朽の自由作戦では日本に駐留する部隊が直ちに展開しました。第7艦隊はインド洋に、第5空軍はアジア各地の基地に展開し、アルカイダ系のテロリストに対する防衛を支援するため在日陸軍と沖縄に駐留する海兵隊は太平洋の友好国に展開しました。

日本の対応もまた迅速で断固としたものでした。日本政府の命により自衛隊は迅速に対応しました。史上初めて海上自衛隊は、不朽の自由作戦に参加している艦艇にインド洋において燃料補給を行い、航空自衛隊は何千トンもの物資の輸送支援を行い、陸上自衛隊は警護活動のための演習を行いました。すべてが歴史上初の活動でした。

イラクにおける平和への脅威を世界が認識している状況下で、在日米軍では日本の防衛を継続して行ってきましたが、同時に周辺地域の平和と安定を守る活動への参加も増加してきました。イラクの自由作戦開始直後ステルス機能なしでバグダッド上空を飛行したのは嘉手納基地と三沢基地所属の戦闘機でした。第7艦隊ではその戦闘力を派遣しました。第3海兵遠征軍はイラク国内に展開し戦闘に参加しました。在日陸軍も戦闘力に加わっていました。

日本政府の命により、再度自衛隊は対応しました。そして新たな史上初である南西アジアにおける多国籍の平和活動への参加の準備を始めました。航空自衛隊では所有するC-130機を四分の一派遣し、イラク上空を飛行しました。陸上自衛隊では自由を追求し、やっと自分の人生を手に入れた人々を支援するために三個旅団等から技師や医療関係の隊員をイラクに派遣しました。また歴史を作ったのです。

昨年12月26日、地震と津波による甚大な被害がインド洋の周辺国を襲いました。我々の対応はまた迅速なものでありました。ファーゴ大将の命の下、何十万人もの被害者の命を救うための緊急援助の基礎となったのは日本駐留の部隊でした。48時間以内に統合支援部隊536がタイのウタパオに設置され、被災国に何が必要かの調査を始めると同時に、被災国に到着し始めた緊急援助物資を配り始めました。

日本に駐留している第3海兵遠征軍が、援助物資を提供するための空輸支援とマンパワーを派遣しその指揮を執りました。アジアに展開した本土部隊の支援を受けながら、日本駐留部隊が命を繋ぐための食料や医療物資を被災者に提供している様子が毎日ニュースで報道されていました。

平凡な陸、海、空、海兵隊の各兵士が毎日驚くべき勇敢な偉業を成し遂げていました。それぞれの活動は公に評価を受けることはないでしょうが、被災者の方々には思いは通じています。

日本は迅速に航空自衛隊の空輸機をタイに派遣し、各国の人道復興支援活動に加わりました。その後も自衛隊は活動を続け、被災国の復興に現在1000人以上の隊員が現地に派遣されています。ここでも両国は歴史を作りました。

日本がアジア太平洋地域で確固たるリーダーとなっていく中で、米日安全保障同盟はますます強固なものになってきました。このことは小泉総理大臣のブッシュ大統領への電話の最後で「世界の中で最も重要な二国関係を強化していくために、良き友人として大統領と協力していきます」という発言でも確認できます。

初めに申し上げましたように私はエアマンであり、本日ここに参集している陸、海、空、海兵隊のすばらしい仕事が私の誇りです。また、我々の日々の活動に直接関与しその任務に対する合衆国政府の軍属のコミットメントも私の誇りです。

更に、在日米軍施設で我々と共に働き、チームの大事な一員となっている日本人従業員の皆様のコミットメントも私の誇りです。ありがとうございます。

ベーカー大使のチームは、我々日本で活動するものたちのクォーターバックであります。ご支援に感謝すると共に、お二人のこれからの人生に神のご加護のあることを祈ります。

ファーゴ大将とヘスター大将は在日米軍の将来像を示してくれました。私を信頼し、わが軍の最も優秀な若者たちを指揮する栄誉を与えてくださったお二人に感謝いたします。

共に仕事をしてきた自衛隊の皆様、皆様は自衛隊

を形作る建築家でもあります。皆様とご家族のご多幸をお祈りいたします。

ライト中将、最高の陸、海、空、海兵隊の指揮を執るこの職への就任、おめでとうございます。ご夫妻にとってすばらしい仕事となるでしょう。

私にとって特別な人について触れたいと思います。彼女は親友であり、最も信頼できるアドバイザーであり、私にとって最も大事な人です。妻のシーラです。日本に駐留する軍人、軍属の家族に対する君の思いはとても深いものでありました。北は三沢基地から南は嘉手納基地まで、海外駐留の家族の生活状況の向上のためにあなたの果たした功績も歴史的なものでした。あなたが影響を与えた人たちの人

生は、日本中に見ることのできるあなたの足跡には匹敵しません。若い者たちのためにあなたがしてくれたことすべてに感謝します。

戦争中である偉大な我が国への軍人としての奉仕を終えようとしている今、軍人としてこれからも我が国に奉仕する皆様のお一人お一人を誇りに思います。私はエアマンであり、これからも皆さまへの奉仕を続けていきます。

皆様が成し遂げた偉業に心より敬服いたします。歴史を作りそして将来その業績を皆様の子孫が読むでしょう。皆様が私の誇りです。我が偉大な国への奉仕に改めて感謝いたします。アメリカに神のご加護のありますことをお祈りいたします。

新司令官 ライト中将着任の挨拶 (要旨)



Lt. Gen. Bruce A. Wright

ご来賓の皆様

本日はご参集いただきありがとうございます。また、前回の日本勤務時代からの友人も本日はようこそお越しくださいました。

妻ケリーと娘のジャッキーは数週間後に来日しますが、7年間のブ

ランクを経て日本に帰ってこられたことを家族全員喜んでいきます。在日米軍での勤務や青森県三沢基地の第35戦闘航空団司令官を務めたことなどを含め、このすばらしい国はたくさんの理由で私たちにとって特別なところでもあります。

この二回の勤務では自衛隊のカウンターパートをはじめ、航空自衛隊の山口OBご夫妻やすばらしい日米の友人と言う贈り物を手に入れることができました。また、在日米軍にとりまして各地方自治体の首長の皆様は非常に大切であり、この場をお借りして三沢勤務時代に大変お世話になった三沢市の鈴木

市長に感謝申し上げます。

私にとりまして今回は日本での四度目の勤務となり、海外への転勤と言うよりも故郷へ帰ってきたような気持ちであります。この重要なポストで仕事が出来ますことをケリー共々大変光栄に感じています。この機会を与えてくださったファーゴ大将、ヘスター大将に感謝いたします。

日本の皆さまには、偉大な両国の安全保障のために今一度皆さまと共に仕事が出来ますことを嬉しく思います。日本のパートナーであること、また地域の一員となれることを誇りに思います。日米両国が、イラクでの世界的なテロとの戦い及びアジアの津波の被災国における人道復興支援活動、またその他の日本及びアジア太平洋地域における平和と安定のための活動に取り組んでいる今この時期に、日本で勤務できることは大きな喜びでありチャレンジであります。日米両国の相互協力活動が日本とアジア太平洋地域の安全と安定に大きく寄与していることに疑いの余地はありません。

この数十年、アメリカの指導者達が語ってきた通り、米日同盟は最も重要な二国間関係であります。



Lt. Gen. Wright accept the flag from Gen. Hester

その関係は安全保障に対する相互コミットメントを基盤とし、常に注意をはらい向上に努めなければなりません。ワスコー中将とシーラがこの3年間に築いてきた公私に亘る皆様との関係を、ケリーと私で継承していくことを心より楽しみにしています。

在日米軍及び第5空軍の諸君に対して言いたいことは、我々の任務はこれまでと何ら変わることはないということです。日本の防衛とアジア太平洋地域の安定に取り組んでいくことが我々の最優先事項であります。統合、及び多国間での即応態勢に焦点を

当ててきましたが、今後はそれが一層重要になってきます。その任務を遂行するために、共にチームを組み、自衛隊の皆さまとパートナーを組み、陸、海、空、海兵隊の将兵とその家族の皆さまへの支援を約束します。我々は米軍人と自衛隊員の無私の姿勢とコミットメントを誇りに思います。

ワスコー中将夫妻のリーダーシップと貢献に対してここにいる全員を代表して感謝いたします。退役後も多忙で輝かしい人生を送ることと思います。ご多幸をお祈りい

たします。転動するにあたって多岐にわたり支援くださったことに対しケリー、ジャクリーン共々感謝いたします。

終わりに、これから皆さまとより親密になり、共に仕事に取り組んでいくことを楽しみにしています。ブッシュ大統領は就任演説で米日同盟の重要性について次のように明確に述べました。「すべての同盟国は、我々があなた方の友情を称え、助言を信頼し、支援を頼みにしていることを知って頂きたい」

本日はありがとうございました。



Lt. Gen. Waskow & Wright

ブルース A. ライト中将略歴

ライト中将は1973年に空軍士官学校を卒業し空軍に入隊しました。これまでに戦闘飛行隊々長、支援群司令、作戦群司令、戦闘団司令官としての職務についています。また航空情報局司令官、第8空軍情報・作戦担当副司令官、統合情報作戦センター司令官を勤めました。中将は高級操縦士官であり3,000時間以上の飛行経験があり、そのほとんどが砂漠の嵐作戦およびプロバインド・コンフォート・アンド・ディナイ作戦においてF-16を含む戦闘後で65回の戦闘飛行経験を持っております。

教育：1973 コロラド・スプリングス空軍士官学校

1984 ヴァージニア州ノーフォーク、総合幕僚大学

1992 アラバマ州マックスウェル空軍基地、空軍大学校

1996 ニューヨーク州シラキュース大学上級幹部国家安全保障課程

1998 ワシントンDCフォート・レスリーJ.マクネアー、国防大学

- 経歴：1 1978年3月-1979年7月、嘉手納基地、第67戦術戦闘飛行隊においてF-4Cワイルドイーウィーゼル飛行教官
- 2 1979年7月-1980年8月、フィリピンクラーク空軍基地、第90戦術戦闘飛行隊においてF-4Gワイルドイーゼル飛行教官
- 3 1980年9月-1981年9月、ワシントンDC米空軍司令部、空軍幹部訓練課程において航空作戦士官
- 4 1981年-1984年8月、ネバダ州ネリス空軍基地、第422試験・評価飛行隊においてF-4E飛行教官
- 5 1984年8月-1985年1月、ヴァージニア州ノーフォーク、総合幕僚大学
- 6 1985年1月-1988年3月、ワシントンDC、総合参謀本部J3作戦士官
- 7 1988年3月-1991年6月、スペイン、トレホン基地、第614戦闘飛行においてF-16C作戦士官および飛行隊長
- 8 1991年7月-1992年7月、アラバマ州マックスウェル空軍基地、空軍大学校
- 9 1992年7月-1993年3月、ドイツ、シュパンダーレム基地において第52支援群司令
- 10 1993年3月-1994年6月、ドイツ、ラムシュタイン基地において第86作戦群司令
- 11 1994年6月-1997年2月、横田基地において在日米軍司令部作戦部長（J-3）
- 12 1997年2月-1998年11月、三沢基地において第35戦闘航空団司令官
- 13 1998年11月-2000年1月、ワシントンDC、ペンタゴン、総合参謀本部、情報・作戦副部長
- 14 2000年1月-2001年12月、テキサス州ケリー空軍基地およびラックランド空軍基地において航空情報局司令官、第8空軍情報・作戦担当副司令官、統合情報作戦センター司令官
- 15 2001年12月-2004年9月、ヴァージニア州ラングレー空軍基地において航空戦闘軍（ACC）副司令官

飛行経歴：資格：高級操縦士官

飛行時間：3,000時間以上

資格保有権：T-37、T-38、C-21、T-43、F-4C/D/E/G、F-16A/C

J A A G A の在沖繩日米基地研修



Briefing by 18th wing

J A A G A の法人賛助会員及び個人賛助会員参加の在沖繩日米基地研修は、平成17年3月2日・3日の両日予定どおり実施された。

参加者はナプテスコ（株）五島徹夫氏を団長とする法人賛助会員14名、個人賛助会員8名計22名で、J A A G A から岩崎克彦常務理事以下5名が研修に同行した。

3月2日朝、定刻に入間基地ベースオペレーションに集合して、各人の紹介、全般説明、C-1輸送機搭乗関連のブリーフィング等を終えてC-1に搭乗し、定刻どおり09:00入間基地を離陸し3時間の飛行後那覇基地着。南混団副司令挨拶に続いて基地食堂で昼食をとり、第302飛行隊のF-4EJ改型機を研修した後バスで嘉手納基地に移動した。

嘉手納基地ではVOQ（米軍宿泊施設）で宿泊手

続きを終え、第18航空団司令表敬の後ブリーフィング・ルームで概況説明を受け、屋外のF-15展示機の前で記念撮影をして米空軍将校クラブに移動しJ A A G A 主催の懇親ディナーとなったが、米軍側は航空団司令以下の主要幹部、日本側は南混団副司令・83空司令・J A A G A 沖繩支部長等も参加し、途中、地元日本人学生による「空手模範演技」も加わり、和やかな懇談で親善の環が大きく広がった。

翌3月3日、米空軍NCO食堂でバッフェスタイルの朝食を終え、米軍バスで基地内主要施設に続いて基地を右回りに1周する経路の中で、第909空中給油中隊でKC-135型機の実機研修、第18航空群本部でAWACS及びF-15型機のミッション・ブリーフィング、第44戦闘飛行隊でオペレーション・ルーム、救命装具室及び列線格納庫（Flow Through）

でF-15C型機の実機研修、及び 那覇空港の滑走路工事に伴い嘉手納基地に展開中の空自第302飛行隊のアラート待機とデモスクランブルを研修して全研修予定を終了した。嘉手納基地到着から離隊する迄の全行程間を第18航空団司令ジャンマーク・ジュアス准将は私達と同行し、移動間にも要所所で適切な説明を加えられ、研修を極めて意義あるものとされた。

タイトなスケジュールであったが、最後に短時間、基地内ゴルフ場のクラブハウスに立ち寄る機会を得て、各人、予定外の記念品購入等を楽しんでいた。

復路の那覇基地からは追い風にのり、2時間15分で入間基地に到着し無事研修を終了したが、参加者一同日米航空団等の活動状況の実態を実地に見聞し、それぞれに感銘を受けておられた様子が伺え、その成果は大きいと云える。 (村田博生常務理事記)

Kadena Air Base, Japan



Brig. Gen. Jous and JAAGA's delegation

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

米空軍嘉手納基地研修の感想

ナフテスコ(株)航空宇宙カンパニー 五 島 徹 夫

この度、日米エアフォース友好協会（J A A G A）による米空軍嘉手納基地研修に参加させていただき感想を述べさせていただきます。

昨今、南西諸島については中国の潜水艦による領海侵犯とともに北朝鮮のミサイル、核問題など脅威を身近に感じるとき、極東防衛の大きな要といえる米空軍嘉手納基地の研修の案内を J A A G A 新井常務理事よりいただき、勇躍参加をさせていただきました。

また研修団の団長というご下命をいただき、航空機関係の高名な方々をさておき、さて私がとも思いましたが、名誉なこととお受けすることになりました。

入間基地より C-1 輸送機にて 3 時間にて那覇基地に到着し、早速 南西航空混成団萩原副司令へ J A A G A から岩崎常務理事他の幹部の方々とお礼のご挨拶を行い、後 F-4 E J 改型機の見学を受け、丁寧な説明の際、F-4 E J 型機は 33 年の運用ということで、ご説明の隊員によればその方の年齢と同じとのこと、その間幾多のパイロット、整備の方々これが支えてこられたのかと思うと誠に感慨深いものがありました。また J A A G A 村田常務理事より航空自衛隊での F-4 パイロットでの経験談を見学の際、お聞かせいただき、より理解が深まりました。

那覇基地より嘉手納基地に移動し米空軍第 18 航空団ジュアス准将の出迎えを受け、嘉手納基地の位置付けについて准将自らの丁寧な説明を受け、准将は F-15 のパイロットで現在も団の要として飛行されていると伺うとともに、米空軍嘉手納基地はまさしく極東における米軍の要であると感じました。

我々研修団に対するジュアス団司令の配慮は並々ならぬものがあり、詳細な行動スケジュール、どのような米軍関係者が参加するなど案内書が事前準備され、宿泊施設に向かいました。

宿泊施設は居間のついた広く快適な設備を伴ったも

のを我々団員一人ずつにあてがわれ感激でありました。

その後のパーティではジュアス団司令、ジंक副司令他幹部および南混団副司令も出席いただき、フランクな雰囲気では話が進みました。

翌日は米軍バスでジュアス団司令が自ら案内役となり、F-15 型機における説明と KC-135 型機内見学とともに、移動途中には車窓から各施設の説明があり、基地での騒音問題（嘉手納町の民家側にある P-3 C 航空機などは 2 年を目途に南側の F-15 と同じ側に移されるとのこと）、基地で使用する物品等を基地周辺で調達するなど基地司令としても日米関係維持に並々ならぬ配慮を進めておられることを感じました。

滑走路 2 本の広大な嘉手納基地と作戦基地としての施設、また 隊員および家族が米国本土並みの生活維持できる施設の充実を眼のあたりにして、米軍のプレゼンスのすごさを感じた次第です。

また 那覇基地夜間工事のため、ここ半年臨時に嘉手納に展開されている F-4 E J アラート模擬演習を見ることができ、5 分での出撃を見ることができたのは感激でした。24 時間待機体制の中、随時的な体制維持のご苦労も判りました。

今回の研修について翻ってみますと、まず J A A G A の関係者の方々による米空軍／航空自衛隊等への周到な事前準備と共に、第 18 航空団のジュアス准将自ら、J A A G A メンバーを通じて日米親善の架け橋を促進されようとする、熱い思いのもと自ら 2 日間ご案内いただいたこと（なかなかこのようなことはなく、司令の J A A G A の思いの表れと米軍関係者から伺いました）、また親しく懇親の場を団司令、副司令の出席のもとディナーと朝食と 2 回も設定いただき、大いに日米交流ができたことは意義深いものでした。

改めて第 18 航空団ジュアス団司令、ジंक副司令

並びに隊員の方々、また 南西航空混成団 萩原副司令並びに隊員の方々に心より御礼申し上げます。

また JAAGA理事の方々には今回の研修を設定いただき、かつ 研修中、細やかな心配りをいた

だいたこと、一同を代表し心より感謝申し上げます。

今後も日米エアフォースの交流が益々隆昌されることを祈念し御礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

日米優秀隊員表彰

——平成16年度JAAGA賞決定、在日米空軍各基地において感謝状と記念品贈呈——

平成17年1月20日（木）横田基地、同1月28日（金）三沢基地、同2月5日（土）嘉手納基地の各NCOクラブにおいて平成16年度JAGGA賞の受賞式が実施された。

本賞は日米関係の向上に貢献した年度優秀隊員を各基地司令の推薦に基づき被表彰者を決定、JAAGAが表彰するものであるが、表彰式は米空軍においては公式行事である年度表彰（Annual Award）式に取り込まれる等高い評価を得ており、本年も横

田、三沢、嘉手納の各米軍基地において、選ばれた各基地における米空軍優秀隊員（The Best of Best）と共に表彰が実施された。

受賞者は、浦山南混成団司令・滝脇那覇基地司令（嘉手納）、平田三沢基地司令（三沢）、田中防空指揮群副司令（横田）等航空自衛隊VIP及びJAAGA各支部長等同席の下、JAAGA代表者として出席した村木会長（横田）、江藤副会長（三沢）、後藤副会長（嘉手納）から感謝状と記念の盾を受領した。



Annual Award at Kadena



W/O Imagawa & Lt. Gen. Etoh



Col. Kreulen & Gen. Muraki

J A A G A Award 04受賞者の功績等

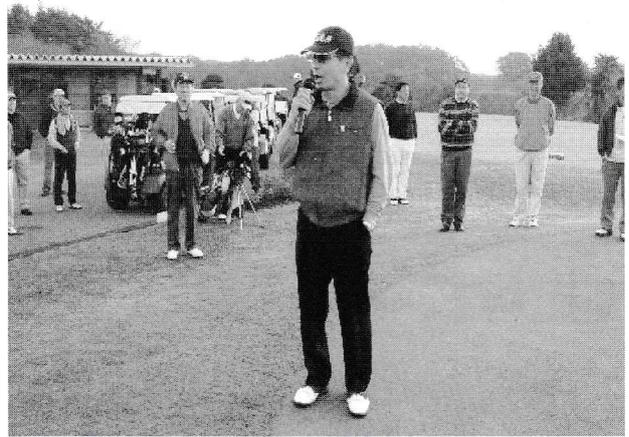
日・米	基地	所属部隊	受賞者	表彰内容
空自	三 沢	第3航空団 施設隊	准空尉 今川 徳治	<ul style="list-style-type: none"> * 三沢基地准曹会会長として日米の相互理解と関係強化に尽力 * 日米交流行事（基地綱引き大会、米軍基地研修、ダイニングアウト）を成功に貢献 * 日米の下士官およびその家族間の親睦に貢献
	府 中	空幕教育課 (元総隊司 運用課)	1等空曹 秋元 洋一	<ul style="list-style-type: none"> * (横田基地) 訓練調整幹部付として円滑な連絡調整に尽力 * 横田基地でのマラソン競技、スペシャルオリンピック等へのボランティア参加呼びかけの実施 * 日米の下士官交流、リクレーションの計画と実行における貢献
	入間	中警団司令部 人事部	准空尉 遠藤 登	<ul style="list-style-type: none"> * 空自連合准曹会副会長として日米の下士官交流に尽力 * スペシャルオリンピックでのボランティア活動、米軍行事への積極的参加 * 基地行事への米軍人招待時の調整、接遇を通じて、日米下士官の相互理解と親睦に貢献
	那覇	83空隊検査隊	3等空曹 村田 健治	<ul style="list-style-type: none"> * グアムでの日米共同訓練（コープノース）における調整業務に尽力 * 16年9月の空軍参謀長等会議（ACCJ）のエスコート役で活躍 * 嘉手納基地でのアラート待機に関わる細部の調整に貢献
米軍	三沢	第35航空団	大尉 マーシュW. ギブソン	<ul style="list-style-type: none"> * 保全中隊の教育、訓練担当将校として陸自との統合部隊編成に尽力、三沢基地防護能力の強化に貢献 * 警備に関する陸自との協定の締結に尽力し、基地防衛の実習等を通じ基地隊員の安全確保、日米の信頼関係の強化に貢献
	横 田	第374航空団	所沢燃料流出復旧チーム (代表：大佐ダグラスE. クルーレン)	<ul style="list-style-type: none"> * 16. 8. 31の所沢通信所の燃料流出事故処理における功績 <ul style="list-style-type: none"> ・迅速、機敏な対応 ・リーダーシップ、チームワーク、卓越した実行力および政府や自治体との連携による日米の信頼関係の強化に貢献
	嘉手納	第18航空団	1等軍曹 K.トラウィック	<ul style="list-style-type: none"> * 日米交換下士官として、過去3回の空自隊員の嘉手納研修に尽力 * スペシャルオリンピックへのボランティアの募集、日米中隊レベル将校親交クラブの設立、那覇基地前任空曹の招待等、友好親善に貢献 * 空自上級空曹60名の米空軍下士官課程への入校等に貢献

日米交歓

SPORTEX'04B Golf Tournament

今年度2度目のJAAGAゴルフトーナメントは、勤労感謝の日の11月23日、小春日和を絵に描いたような好天無風まさに絶好のゴルフ日和の中、米軍多摩ヒルズゴルフコースにおいて開催された。米空軍側からベイカー第5空軍副司令官はじめ20数名、航空自衛隊側から津曲航空幕僚長はじめ30数名、そしてJAAGAから村木会長以下40数名、その他ボランティア参加の大会役員等を含め総計100余名が参加した。

未だ薄暗いうちから来場した腕自慢達が、日米交歓の賑々しいムードとティーオフ前の多少の緊張感を楽しみながら、トーナメントブレックファーストのテーブルを囲んだ。そうした中、大会役員等のスタート準備も整齊と進み、天気予報に悩まされた昨年大会とは打って違って雲ひとつない朝あけの下クラブハウス前での開会式という運びとなり、競技要領の説明等が行なわれた。その後各パーティはカートに分乗しそれぞれのスタートホールに進出し、定



Opening Speech by Gen. Muraki

刻7時にスタート・ホーンが全ホールに鳴り響き、ショットガン方式で各ホールが一齐にティーオフ、ここに熱戦「SPORTEX '04B」の火蓋が切って落とされた。

それぞれのパーティは概ねUSAFとJASDFそれにJAAGAの各メンバーによる混合編成、日が昇るにつれての気温上昇でスウィングリズムは勿論のこと

英会話のトークリズムまでも滑らかスムーズとなり、各ホールで舌戦含みの熱戦が展開された。競技開始30分後頃からJAAGA役員がドリンクカートを運転し各ホールを回り、奮戦中のプレイヤーにビール・コーヒー等のデリバリーサービスを行い好評を博した。このドリンクサービスのせいも、はたまたあまりの好天によるものか、つつい力が入り過ぎての超フックや超スライスを披露するプレイヤーもチラホラ……。こうした御同輩を尻目にあくまでもマイペースのマイペースでパー稼ぎに専念



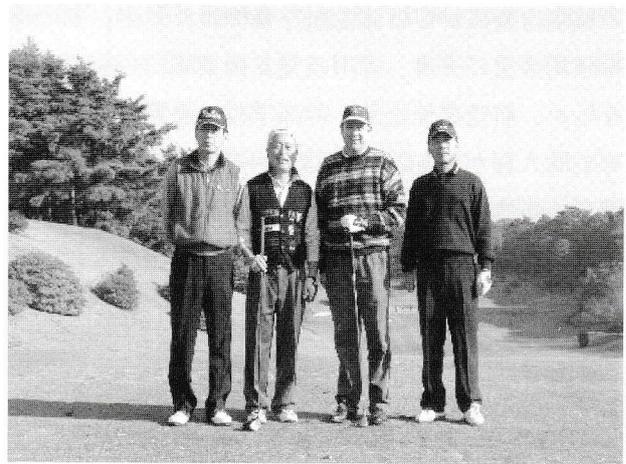
At club house

するベテラン会員が健在する一方で、「ホスト役に徹せよ！」とのJAAGA某理事長の指示が効き過ぎたのか、実力発揮を遠慮した若手会員も居たりして、ホールによっては予想外の混戦模様。よく伝わらない英会話コミュニケーションが幸いし、鋭い舌戦を仕掛けたつもりが和やかなジョークで切り返されての苦笑い・・・などなどは何時ものとおりの。そうした笑いの渦を中心に日米交歓の輪があちこちのホールに広がった。平素の運動不足も手伝って予期せぬ長距離走に息を切らす向きも一部には見られたようだが、全般としては故障者もなくお昼を回る頃には全競技を無事終了した。

クラブハウスに場所を変えてのランチタイムではトーナメント恒例の“反省会”がテーブル毎に盛り上がり、身振り手振りの日米コミュニケーションもこれまた何時ものとおりの盛況ぶり。こうしたうちにも成績集計は順調に進み、表彰式に移った。村木会長の張り込んでの英語スピーチに続き、ユーモア溢れるベイカー副司令官と津曲航空幕僚長の挨拶の後、成績発表とプレイヤー表彰が行われた。1位(USAF)、2位(JASDF)、3位(USAF)の上位入賞者に加え、5番跳びの跳び賞でベイカー副司令官や津曲航空幕僚長を含む計17名の受賞者が、また

ドラゴン賞2名(USAF×2)、ニヤピン賞4名(USAF×2, JASDF×1, JAAGA×1)の受賞者がそれぞれ表彰された。なお総合結果については、ネットの全体平均が76.7で、内訳はUSAFが86.0、JASDFが75.5、JAAGAが71.9という状況で、JAAGA会員の“老骨奮闘振り”をいささか実証した様な成果が得られた。某会員曰く、「悪かったのは、オレのスコアーだけだった!!」・・・という、絶好のゴルフコンディションと最高の日米交歓ムードの中、大成功の「SPORTEX'04B」は終了した。

(吉田常務理事記)



First Party

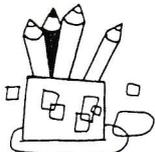
☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております

皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



投稿受付

越智 通隆 Tel 03-3437-8972 (三井物産エアロスペース)

Fax 03-3437-8755

在日米司令官主催クリスマス・パーティー

JAAGAから伊藤副会長等が参加

12月19日(日)、横田基地将校クラブにおいてワスコ
中將主催のクリスマスパーティーが開催された。

例年は「オープン・ハウス」という形で司令官の
官舎にて催されているパーティーであるが、司令官
は既に官舎を出ているため、今回はオフィサーズ・
クラブでの開催となった。

航空自衛隊からは津曲航空幕僚長ご夫妻、田母神
総隊司令官ご夫妻、香川航空支援集団司令官ご夫妻
を始め、航空幕僚監部、幹部学校の勤務者及び夫人
等約50人程が参加、JAAGAからは会長代理の伊藤
副会長を始め、後藤副会長、山口副理事長夫妻、阪
東常務理事夫妻、山本常務理事夫妻が出席した。約

1時間半のパーティーは、米側のいつも通りの暖か
いホスピタリティーに満ちた接遇を受けた大変楽し
いものであったが、イラク問題の影響からか全般に
落ち着いた雰囲気のパティーであった。

パーティー半ばにはJAAGAメンバーが集まり、
伊藤会長代理からワスコ司令官に、9月29日に
行われた司令官送別会時の写真を編集したCD（四ツ
家常務理事作成）を贈呈したところ、司令官は大変
喜ばれた。パーティー終了時に司令官からJAAGA
の活動を高く評価している旨のスピーチもあり、素
晴らしいクリスマス・パーティとなった。

(山本常務理事記)



Lt. Gen. Waskow & JAAGA members

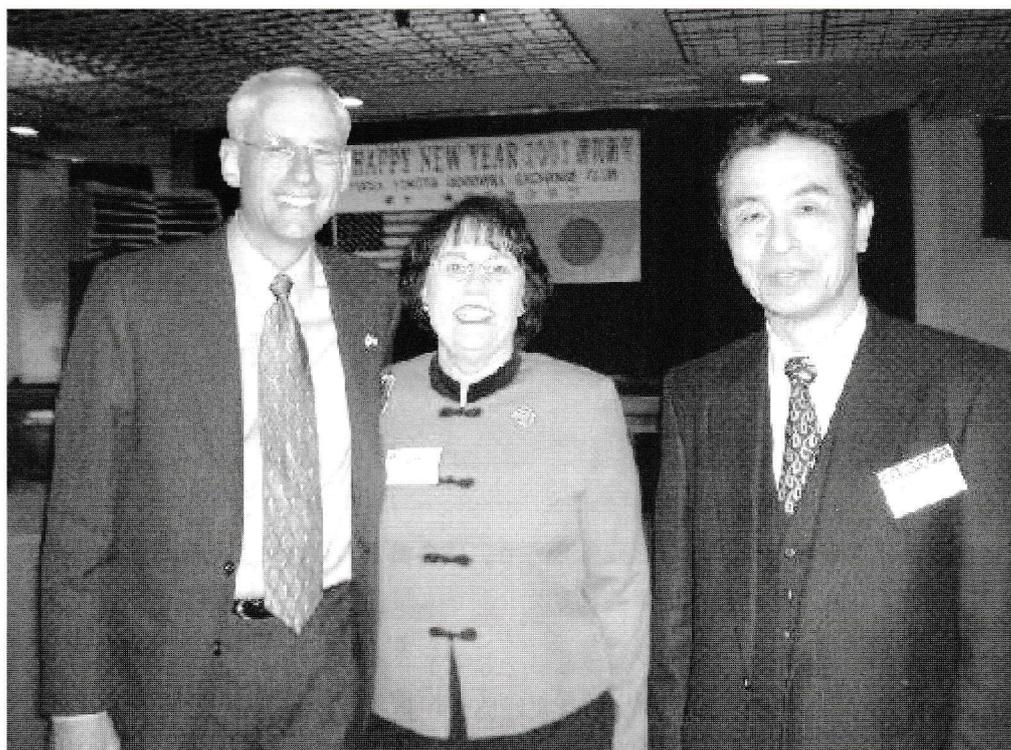
平成17年

福生・横田交流クラブ新年会に参加

1月31日、本年も福生・横田交流クラブの新年会が横田基地で開催され、村木会長以下4名が招待を受け出席した。石川同クラブ会長は挨拶の中で、同クラブが創立16年を迎えたこと、近隣のあきるの市と瑞穂町が昨年横田基地との交流クラブを立ち上げたこと等を紹介するとともに、地元と横田基地との交流が広がることは大変嬉しいとの所感を述べた。世界的規模の米軍再編の中、横田基地をめぐる話題も軍民共用化等、新聞紙上を賑しているが、本年はいよいよその結論が見える年といわれており、懇親会でもその話題があちこちで聞かれた。米側からラーセン在日米軍副司令官、シスラー基地司令が挨拶し

た。両氏とも昨年に引き続き流暢な日本語で挨拶をし、参加者一同は驚きとともに大変感心した。シスラー基地司令は昨年末のスマトラ沖大地震に際し米側現地指揮官として、隊員250名とC-130型輸送機8機とともに地震直後から、タイのウタパオ飛行場に展開し、同地で約1ヶ月間勤務していたが、丁度この日の交流クラブ新年会に合わせるかの様に任務終了となり横田に帰隊した。石川会長はじめ福生・横田交流クラブの皆様には毎年JAAGAに対して新年会へのご招待を頂いていることに対し本ページをお借りしてお礼申し上げます。

(越智常務理事記)



Col. & Mrs. Shissler & Gen. Muraki

… 新入会員の紹介 …

1 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
江 口 賢 造	276-0022	八千代市上高野1143-12	047-486-8366
堀口内燃機工業(株)	150-0021	渋谷区恵比寿西2-1-10 プライムホリグチビル	03-3780-1251
岡 本 秀 夫	359-0027	所沢市松郷105-94	04-2945-0627
日本エアロスペース(株)	107-0062	港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル 9F	03-5785-5973
磯 田 誠 二	206-0821	稲城市長峰3-5-3-802	042-350-0578
イセオインターナショナルインク日本社	107-0052	港区赤坂2-11-7 ATT新館 5F	03-3568-8062

2 個人賛助会員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
酒 井 裕 二	945-0307	刈羽郡刈羽村大字刈羽3765-2(株) 東京エネシス刈羽寮	0257-45-3646
(株)東京エネシス 新 潟 支 社	945-0016	柏崎市青山町字青山9-4	0257-45-2111
稲 垣 美 彦	197-0003	福生市熊川 1123-5	042-551-5550
社 会 福 祉 法 人 会 も く せ い 会	197-0017	福生市福生2300-4	042-553-6633

会 員 募 集

J A A G A は、今年で創立 9 周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。

会員の皆様の勧誘及び推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員担当窓口は、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊の O B

個人賛助会員 : 航空自衛隊の O B 以外の方で、正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】 〒105-0004 東京都港区新橋 5 - 2 5 - 1 - 3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

【電話】 03-3489-1120 尾 崎 利 夫 (東京航空計器(株))

03-6716-4303 村 岡 亮 道 (三菱重工(株))

03-5400-4722 宇都宮 靖 (横浜ゴム(株))

03-3286-0339 新 井 洋 一 (新東亜交易(株))